

5月10日
 信毎新聞記事より
 「先天性難聴1000人に1.62人」

当院で初期研修をした
 信州大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学教室
 「吉村豪兼講師」
 が信毎新聞に掲載されていました！

信大、県内15万人調査 原因整理は「世界初」の成果

先天性難聴 1000人に1.62人

信州大医学部（松本市）は、2009、18年度に県内で生まれた15万人を対象に先天性難聴の大規模疫学調査をした結果、先天性難聴は千分の一・62人だったと発表した。両耳の難聴と片耳の難聴それぞれについて、遺伝や病気といった原因も調べた。研究チームによる論文は4月に英国の医学雑誌に掲載。重症度に応じて原因を整理した成果は「世界初」という。チームは、全国の医療機関が難聴の原因を調べる際に基盤データとして活用することを期待している。

生後数日で耳の聞こえを調べる新生児聴覚スクリーニングを受けた15万3913人（検査率98・6％）を対象にデータを整理。このうち先天性難聴（中等度以上）と診断されたのは249人（千人当たり1・62人）。両耳の難聴は130人（同0・84）、左右いずれかの難聴は119人（同0・77人）だった。原因は両耳が難聴の場合、遺伝性が56・2％で大半を占めた。左右どちらかの耳が難聴だと神経の発達が不十分な病気「蝸牛神経形成不全」が40・3％と最多だった。いずれも症状が重い（高度、重度）場合は割合が増えた。原因の一つの「先天性サイトメガロウイルス」への感染は両耳と片耳ともに4％台だった。研究チームは19年まで県内の先天性難聴児のほぼ全てを信大病院が診断し、全国の先駆者として遺伝子解析も含めて原因を調べてきたことに着目。他の都道府県では複数の医療機関が診断や原因の検査などを担っている。

論文は信大医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学教室の吉村豪兼講師（42）が筆頭著者。宇佐美真一名誉教授（69）や同教室の工藤教授（55）とともに22年からデータを整理してきた。吉村講師は今回の成果について「日本の普遍的なデータになりうる」と説明。各地の医療機関が難聴の原因を調べる際に基礎資料にしようとする中で、「医療の底上げにつながる」と期待している。



信大医学部（松本市）は、2009、18年度に県内で生まれた15万人を対象に先天性難聴の大規模疫学調査をした結果、先天性難聴は千分の一・62人だったと発表した。両耳の難聴と片耳の難聴それぞれについて、遺伝や病気といった原因も調べた。研究チームによる論文は4月に英国の医学雑誌に掲載。重症度に応じて原因を整理した成果は「世界初」という。チームは、全国の医療機関が難聴の原因を調べる際に基盤データとして活用することを期待している。